



2015年9月25日(金)

報道各位

第5回「クリエイターズ殿堂」決まる
伊藤アキラ、故・梶山三太、故・沼上満雄、
操上和美、故・大西清の5氏

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟（略称：ACC、東京都港区、理事長：高田坦史）は、第5回「クリエイターズ殿堂」入りクリエイターを伊藤アキラ、故・梶山三太、故・沼上満雄、操上和美、故・大西清の5氏に決定致しました。（選考理由は別紙）

ACCではCM表現の向上に関する事業の一環として、1983年7月に「ACCパーマネントコレクション」（通称：CM殿堂入り作品）を制定し、歴史に残る優れたCMを殿堂入り作品として選考して来ました。CM作品が殿堂入りすると同時に、このような優れたCMを長年作り続けたクリエイターにも焦点を当てるべき、との考えから、2010年にACC創立50周年を記念して「クリエイターズ殿堂」を創設致しました。

小田桐昭選考委員長はじめ計5名（別紙）の選考委員が選考会を開き、第5回「クリエイターズ殿堂」入りクリエイター5氏を選考し、9月25日（金）の理事会で正式に決定されました。

贈賞は10月28日（水）に開催する2015 55th ACC CM FESTIVAL 贈賞式（ANAインターコンチネンタルホテル東京：溜池）にて行う予定です。また、クリエイターズ殿堂入りしたクリエイターの作品は、アド・ミュージアム東京（東京・港区）、放送ライブラリー（横浜市）で閲覧出来るようになっており、今回殿堂入りした5氏の作品についても同様に閲覧可能にする予定です。

以上

この件に関するお問い合わせ先
一般社団法人 全日本シーエム放送連盟
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ユニオンビル 6F
TEL：03-3500-3261 FAX：03-3500-3263
URL <http://www.acc-cm.or.jp>
担当：羽鳥俊之

<第5回クリエイターズ殿堂 選考理由、プロフィール>

伊藤（いとう）アキラ氏



<選考理由>

「CMソングの作詞家」という肩書で活躍し、世の中からもそのように認められた作詞家は、きっと伊藤アキラ氏だけだと思う。そしていつもCMソングの先頭にいた。作詞家というよりコピーライターと呼ぶべきかもしれない。いつもジャーナリスティックな目で時代と商品を明るく歌い上げた。日本のCM向上にとって重要な働きをしてきた人である。

<プロフィール>

1940（昭和15）年8月12日、千葉県生まれ。東京教育大学文学部在学中から三木鶏郎事務所に入る。ACC賞銀賞の丸善石油（現コスモ石油）の「オー・モーレツ！」をはじめ、日立製作所「この木なんの木（日立の樹）」、新興産業「パッ！とさいでりあ」、日本香堂「幸せの雲（青雲のうた）」、カシオ計算機「答え一発！カシオミニ」など、CMソング、歌謡曲、アニメソングを多数手掛け、その作品数は1,000曲を優に超え、ご本人の名前は知らなくとも、「聴けば誰でも知っている曲」を数多く残している。75歳。

故・梶山三太（すぎやま さんた）氏





<選考理由>

話題作を数多く作りながら、本人の名前が有名 CM の陰に隠れてしまう不思議なディレクターである。実験作のパイロット「ハッパふみふみ」も、日本初のカンヌ・グランプリのサントリーホワイト「サミー・デイビス・ジュニア」や若者の間で大流行したホンダ「CITY」にしてもそれぞれ世の中を騒がせている。しかし、「相山三太らしさ」ってなんだろう、と思うと分からなくなる。作家としての個性よりも、作風から自由であると言う事の方が氏にとっては大切なことなのかもしれない。「CM の表現の枠が広がった」と思わせる所に、相山三太氏はいつもいたような気がする。

<プロフィール>

1939（昭和 14）年生まれ。東京都出身。学習院大学理学部化学科卒。日本化薬（株）入社。その後日本天然色映画へ転身。同社、CM ランドで CM ディレクターとして第一線で活躍。1966（昭和 41）年、日産自動車「ダットサン・フェアレディー／空と陸」で ACC 賞銀賞受賞。以後 1973（昭和 48）年、上記サントリーホワイト「Get with it（サミー・デイビス・ジュニア）」で同グランプリ、1990（平成 2）年 JAL「企業イメージ／ジャネット・ジャクソン」で ACC 賞など、世間的に大きな話題となった作品を多数プランニング、演出。2011（平成 23）年 72 歳で逝去。

故・沼上満雄（ぬまがみ みつお）氏



<選考理由>

博報堂で CM プランナーらしい人と言え、沼上満雄氏だった。広告人というよりも、氏の「人間の善意とか、優しさを信じる世界」を人々は愛した。作家らしいと言え、沼上氏ほど作家らしいプランナーはいないかも知れない。それでいて CM を心から信じてもいた。ソニーの「タコの赤ちゃん」も、資生堂の「名球会」も CM のことばが人々を幸せ



にすることを疑わなかった。幸せな CM プランナーでもあった。藤井達郎氏とはまた違った、CM プランナーの系譜が沼上氏のグループから生まれた。

<プロフィール>

1936（昭和 11）年 10 月 3 日埼玉県生まれ。1959（昭和 34）年青山学院大学文学部卒業。1961（昭和 36）年博報堂入社。1971（昭和 46）年から日産自動車「ブルーバード」を担当。1972（昭和 47）年、ソニー「自然シリーズ」がスタート。1973（昭和 48）年同「タコの赤ちゃん」で ACC 賞秀作賞受賞。資生堂「ヴィンテージ」（同 ACC 賞）、丸美屋「釜めしシリーズ」など多数の CM を手掛けた。1990（平成 2）年第二制作局局長。1993（平成 5）年、㈱博報堂フォトクリエイティブ代表取締役社長。定年退職後は「KEY-STONE」を設立。2000（平成 12）年 10 月 23 日逝去。亡くなった後、氏の優れたクリエイティブ・ワークを有志の方々が「沼上満雄の世界」という本にまとめ上げた。

操上和美（くりがみ かずみ）氏



<選考理由>

初期の日本の CM は劇映画のスタッフによって始められた。グラフィック・スチールの撮影方法を CM に最初に持ち込んだのが操上和美氏である。映画手法からの脱却は、コミュニケーションデザインのひとつとしての CM の念願だった。操上氏の CM 進出によって、以後多くのスチールカメラマンが後を追うように CM に参加した。日本の CM 映像を飛躍的に向上させたのは操上氏の功績である。

<プロフィール>

1936（昭和 11）年 1 月 19 日北海道富良野生まれ。1961（昭和 36）年東京写真専門学校卒業。杉木直也氏に師事し、1965（昭和 40）年フリーランスとなる。1969（昭和 44）年に初めて商業フィルムを手掛け、翌 1970（昭和 45）年、レナウン「ジョンブル／丸太乗り」での ACC 賞受賞を皮切りに、1994（平成 6）年サントリー「ボス／会議でしゃべる」で ACC 賞郵政大臣賞を受賞するなど入賞多数。又、写真家として ADC 会員最高賞他を受賞するなど、現在に至るまで写真、雑誌、広告、映像など幅広い分野で第一線として活躍。今年の 4 月にも写真展「SELF PORTRAIT」を開催。79 歳。



故・大西清（おおにし きよし）氏



<選考理由>

TCJ にいて柳原良平氏などと組んで名作「アンクルトリス」のアニメーションを担った。当時、ディズニー・スタイルのフル・アニメーションが全盛の頃にリミテッド・アニメーションを導入して、そのデザイン的な動きで人々を驚かせた。一方、桃屋の「江戸むらさき」の三木のり平のアニメーションでは伝統的な手法で、子供から大人までの人気を集めた。60年代70年代をリードしたアニメーターである。

<プロフィール>

1934（昭和9）年生まれ。石川県出身。保善高校卒業。㈱TCJ にてアニメーターとして活躍。1961（昭和36）年サントリー「トリスウイスタン」でACC賞第1位、また桃屋「江戸むらさき／国定忠治の巻」で佳作。1967（昭和42）年「トリスウイスキー／ちんどん屋」で金賞を受賞。CMだけでなく「エイトマン」など多数のテレビ、映画のアニメーションも手掛け、日本のアニメーションの礎を築いた。2014（平成26）年6月逝去。

<第5回クリエイターズ殿堂 選考委員>（五十音順）

選考委員長 小田桐昭氏

選考委員 坂田耕、杉山恒太郎、武部守晃、宮崎晋の各氏

以上